

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 がな 名	わたなべ 渡部 ようこ 陽子
(研究テーマ名) 正倉院文書からみる奈良時代の写経事業 ―組織と物品を中心に―	
(研究活動実績) <p>本研究では、奈良時代の写経所で使用された物品について、その名称や形態だけでなく、製造場所、入手経路、活用方法、写経事業終了後の取り扱い方など、物品の機能をできるだけ具体的に解明することを目的としている。それによって、古代の物質文化の実態を明らかにし、それを運用する官僚機構の実態の解明を目指している。</p> <p>①は、2011年10月に正倉院文書研究会において報告した「正倉院文書にみえる帙」をもとに、全ての史料をもう一度検討し直し、まとめたものである。帙とは、経巻10巻程度をまとめて保管するためのものであるが、荘厳を整えるのに重要な役割を果たす。しかし、写経所の文書が中心である正倉院文書には、帙に関する記載は断片的にしかならず、これまであまり注目されてこなかった。私は、正倉院文書を詳細に検討することで、写経所とそれ以外の組織が連携し、写経事業を完成させたことを明らかにした。</p> <p>②は、経巻を移送・保管するために使われた櫃について考察したものである。櫃については、正倉院宝物などに残るものや、近代まで続く収納具としての櫃について、物品そのものに関する先行研究はあるが、写経事業のなかでどのように使用されたか分からない点が多い。写経事業ごとに正倉院文書を検討することによって、写経所において様々な櫃が用途別に使われたことが明らかになった。本報告は、科研の報告書にまとめる予定である。</p> <p>[論文など]</p> <p>① 「正倉院文書にみえる帙」(『正倉院文書研究』13 2013年11月)</p> <p>[研究報告など]</p> <p>② 「正倉院文書における櫃について」(東大寺要録研究会 2013年12月21日)</p>	